

書目 第三〇號

昭和十三年九月十九日

上申 昭和十三年九月十九日 決定 昭和十三年九月十九日 行 施

昭和十三年九月十九日

局長

書記官

銅材割當ニ關スル件

東北振興電力株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通陳情有  
之ニ屬右ニ關シ左案ノ通施行相成可能哉相伺ヌ  
追テ右ハ臨時物資調整局長官、企畫院總裁、逓信大臣  
又日本銅統制組合ニ對シテモ別途陳情致シタル趣、付申條ヌ

第六一

年月日

内閣東北局長

臨時物資調整局次長

企画院次長

宛各通

目 件 名

標記ノ件ニ関シ東北振興電力株式会社(局長官)宛  
 宛跡途陳情書提出致シ名越ニ有テ天愛同社ハ東  
 北地方ニ於ケル各種産業ヲ振興シテ回ル者何事豊富ナル  
 電力ヲ供給スル目的ヲ以テ設立セラルル国策的持殊會  
 社有之該陳情書ニ據陳セル如ク同社ノ送電工事ノ  
 円滑ナル進捗ヲ回ルハ管ニ東北地方振興上肝要ナルニ  
 ナラズ我國刻下ノ多急務タル重要資源開採ニ  
 業興陸海基電力株式会社(局長官)ニ  
 思料セラレテ特殊事情御洞悉ノ上同社ノ送  
 電工事に銅線ノ配給割當ニ関シ格別御配慮相  
 度此段及御依頼ス

(別紙第...案ノ二)

年 月 日

内閣東北局長

目 件 名

本月十四日附ヲ以テ標記ノ件ニ関シ内閣総理大臣宛陳  
 情書提出相成テ有テ別紙寫ノ通臨時物資調整局長  
 並ニ企画院次長ニ之ヲ依頼致置テ有テ了知相成度  
 云々

電力令大 調査部 局長

(日本製)

裏面白紙

内閣東書第三〇號

昭和十三年九月二十一日

内閣東北局長 桑原幹根

東北振興電力株式會社社長 八田嘉明殿

銅材割當ニ關スル件

本月十四日附テ以テ標記ノ件ニ關シ内閣總理大臣宛陳情書提出相成候  
處別紙寫ノ通臨時物資調整局次長竝ニ企畫院次長ニ夫々依頼致置候條  
御了知相成度候

内閣

内閣東書第三〇號

昭和十三年九月二十一日

内閣東北局長 桑原幹根

臨時物資調整局次長 一宛各通  
企業院次長

鋼材割當ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ東北振興電力株式會社ヨリ今般内閣總理大臣宛陳情有  
之右ハ貴院<sup>局長官</sup>宛ニモ別途陳情書提出致シタル趣ニ候處同社ハ東北地  
方ニ於ケル各種産業ノ振興ヲ圖ル爲低廉豐富ナル電力ヲ供給スル目的  
ヲ以テ設立セラレタル國策的特殊會社ニ有之且該陳情書ニ續陳ヒル如  
ク同社ノ發送電工事ノ圓滑ナル進捗ヲ圖ルハ實ニ東北地方振興上肝要  
ナルノミナラズ亦我國刻下ノ急務タル重要鐵產資源ノ開發時局産業ノ  
勃興等國力ノ擴充ニ資スル所大ナルモノアリト思料セラレ候條右特殊

内閣

事情御調査ノ上同社ノ發送電工事用鋼材ノ配給割當ニ關シテハ格別ノ  
御配慮相煩度此段及御依頼候

13.9.10

北書三〇

支那開發第五二號

昭和十三年九月十四日

仙臺市勾當町二十八番地

東北振興電力株式會社

社長 八田 嘉 明

內閣總理大臣 公啓 近衛 文 磨 殿

銅材製鋼會ニ關スル陳情書

弊社へ豫面御承ノ通、東北地方ノ産業開發ト經濟振興ヲ計ル爲、  
該地方ノ發電水利地點ヲ優先的ニ開發シ、低廉豐富ナル電力ヲ供給  
スルコトヲ使命トシテ去ル昭和十一年十月設立セラレタル處、爾來  
官民各位ノ御援助ニヨリ着々送電ノ工事ヲ進メ、内本年末ニ於テ  
竣工ヲ豫定セラレタル福島、岩手、青森及秋田縣下ノ發電所五ヶ所

東北振興電力株式會社

出力合計六一、二〇〇「キロワット」及之ニ附隨スル送電線路一八  
七、二軒ハ略工事竣工ノ見込シ豫定シ、之カ竣工ト共ニ本年十二月  
前後ヲ期シ營業發電開始ノ豫定ト相成居候  
而シテ發生セラレタル六一、二〇〇「キロ」ノ電力ハ現時局ノ影  
響モ有之、幸ヒ東北地方ニ新ニ開發計畫セラレタル諸産業用ニ充當  
セラルルモノ極メテ多ク、尙需用電力ハ弊社當初ノ豫想ヲ遙カニ超  
ヘ却テ之等需用電力ノ全部ニ應ズルコト困難ナル狀況ナルニ値シ、  
弊社ハ現時局下ニ於テ、特ニ重要産業ナリト認メラルル、「アルミ  
ニウム」特殊金屬等ノ製造、製鐵、金其ノ他重要礦石ノ採掘及精鍊、  
石炭ノ採掘、電氣化學、海軍工場及鐵道工場等ノ需用方面ニ對シ、  
勢メテ優先的ニ供給スルコトニ致願現狀ニ有之候  
就イテハ一層コノ狀勢ヲ助長シ、現時局下ニ於テ必要トスル各種生  
産擴充用需用電力ノ急務ニ對應シ、益々東北振興ノ實ヲ舉グルガ爲  
引續々明年十一年中ニ於テモ發電所ノ工事ヲ進メ、秋田及福島縣下ニ

(日本經濟現狀圖列)

於テ發電所三ヶ所出力合計四五、九六〇「キロ」ヲ開發シ、之ニ附  
 屬シテ送電線路三四八軒變電所三ヶ所出力合計四六、五〇〇「キロ  
 ヲルト・アムペア」ノ施設ヲ爲スコトニ計畫ヲ樹テ、目下着々工  
 事進行成ハ準備中ニ有之候處、之等諸工事ニ必要ナル材料ノ手配ニ  
 付テハ相當困却致居候就中弊社ノ直營工專用トシテ必要ナル鋼線ハ  
 株式会社住友電線製造所ニ發註シ、再三折衝中ニ有之候ヘトモ同社  
 ハ目下鋼材拂底ノ事情ヨリ之ガ受註ニ相當難色ヲ示シ、弊社亦コノ  
 點ニ付焦慮致居若シ此等所要鋼線ニシテ入手困難ナルカ、成ハ納入  
 時期著シク遅延スル等ノコトアリテハ、既ニ工事着手中ノ弊社發電  
 工事ノ一頁計畫ガ頓挫セラルルコトトナルノミナラズ、弊社電力供  
 給開始ニ待機セル前線ノ如キ時局下ノ重要産業亦其ノ出鼻ヲ挫カ  
 ルコトトナリ、延イテハ東北地方振興ノ企圖ニモ影響スル虞渺カラ  
 ザルベシト憂慮致居處ニ御座候  
 就テハ前線等社昭和十四年中ノ諸工專用トシテ必要トスル鋼線高及

東北振興電力株式會社

株式會社住友電線製造所ガ該電線製造ノ爲鋼線製造會ニ對シ配給  
 額當チ申請スベキ鋼材ノ數量及時期ノ概要ハ左記ノ通りニ有之、若  
 クハ弊社ノ事情ニ付格別ノ御覽察ヲ賜ヒ、弊社所要鋼線ヲシテ各所  
 定ノ期日迄ニ所定ノ數量チ入手可能ナル後御配意相宜度別番說明書  
 相添此段及陳情候也

記

昭和十四年中所要鋼線高	住友電線ヨリ鋼線チ 御社ニ納入スベキ時期	所要鋼線高(住友ヨリ弊社) へ納入數量)
住友電線ニ對シ鋼材 ノ御覽察相仰グ時期	昭和十三年十月上旬	四〇・七七九 噸
同	昭和十四年二月上旬	四九・八〇三 噸
同	昭和十四年十一月上旬	一一〇・〇一七 噸
同	昭和十四年十二月上旬	一三〇・四二〇 噸
同	昭和十四年一月上旬	

(日本標準規格以例)

合 計	同	年二月上旬	同	年六月上旬	一六四・二六一 厘
	同	年三月上旬	同	年七月上旬	一四七・二三一 厘
	同	年四月上旬	同	年八月上旬	一七六・六〇九 厘
	同	年五月上旬	同	年九月上旬	二〇〇・四〇〇 厘
	同	年六月上旬	同	年十月上旬	九〇・一八〇 厘
					一、一一九・七〇〇 厘

東北振興電力株式會社

(日本標準規格以列)



東北振興電力事業計畫概要並昭和十四年中所要銅線ニ關スル説明書

一、弊社設立ノ沿革並事業計畫ノ概要

東北地方ハ由來天惠ニ乏シク、天災ノ累多クシテ且政治的恩惠ニ浴スルコト薄カリシニ加ヘ、近年冷害、震災、水害等相踵ギ、疲弊困憊ノ益甚ダシキモノアルニヨリ、昭和九年十二月時ノ政府ハ東北振興調査會ヲ設ケ東北振興ニ關スル披本塞源的方法ニ關シ組織的考究ヲ重ネテ綜合振興對策ヲ樹立シ、即チ昭和十一年六月東北振興電力株式會社法案並東北興業株式會社法案ヲ臨時議會ニ提出シテ其ノ協賛ヲ經、全年十月弊社並弊社ノ姉妹會社タル東北興業株式會社ヲ同時ニ設立セラレタル次第ニ御座候

爾來弊社ハ其ノ設立ノ趣旨ニ基キ、東北地方所在水利地點ノ經濟的開發ヲ目途トシ、依リテ東北地方全般ニ亘リテ豐富且低廉ナル電力ヲ供給シ、一般電力料金ノ低下ヲ計ルト共ニ地方産業ノ勃興

東北振興電力株式會社

ニ導キ、特ニ現下時局ニ際シテ須急トスル諸産業ノ急速ナル達成ニ資シ、以テ東北振興ノ實ヲ舉グルト共ニ、國下總動員體勢下ニ於ケル國策的要請ニ順應スベク專念致シ居ル次第ニ御座候。是等ニ關スル弊社事業計畫ノ大要ハ別添「事業計畫書」及「事業計畫説明書」ノ如クニ有之、ソノ内現昭和十三年中ニ實施スベキ發電所五ヶ地點出力合計六、二〇〇「キロワット」、送電線路一八、七二軒ニ就テハ既ニ御廳ノ認可ヲ受ケ銅材其他材料ノ手配ヲ完了致シ、目下工事ノ進捗ニ銳意罷在候

三、昭和十四年中ニ銅材ノ御割當ヲ仰グベキ工事ノ實施計畫及電力供給先

(1) 工事計畫

昭和十四年中ノ工事計畫ハ左表ノ通トシ、之ガ計畫ノ内容ハ昭和十三年ニ引續キ増加スル需用電力ニ對スル増加電力供給ト、十三年中ニ落成スベキ前號諸發電所ノ利用率向上ノ爲必要トス

(日本振興電機株式會社)

ル補給能力ヲ兼テ備ヘタル田澤湖ヲ利用スル生保内及神代ノ兩  
 發電所ノ開發、前年ニ引續キ工事續行中ノ信夫發電所（發電技  
 術上、十三年中ニ落成スベキ蘆蕨發電所ニ附屬シテ落成セシム  
 ルヲ要スルモノ）ノ完成、及之等ヲ連繫シテ所期ノ目的ヲ達成  
 シ、更ニ各地ノ電力需用者ニ電力供給用トシテ缺ク可カラザル  
 送電線路ノ施設並ニ十五年以降ノ電力需用増加ニ對應スベク計  
 畫中ノ發電所工費用配電設備ノ施設等何レモ弊社發送電一貫計  
 畫中ノ最主要ナル部門ニ屬スル工事ニ有之候  
 昭和十四年中ノ工事實施計畫

東北振興電力株式會社

工事種別	名稱	摘要
發電所	生保内發電所	秋田縣下出力二、〇〇〇「キロワット」
	神代發電所	秋田縣下出力一、九二〇〇「キロワット」
送電線	信夫發電所	福島縣下出力 五七六〇「キロワット」
	神代線	出力 合 計四五九六〇「キロワット」
	秋田線	
	田澤線	
	猪苗代發電所大日本電力 日橋川發電所間送電線	
	閉伊川線	
	八戸線	
	花巻線	
	松川支線	
	信夫連絡線	
	盛岡發電所	
酒田發電所		
猪苗代發電所		
發電所		

配電線	
米内配電線	十五年度落成米内發電所工専用 百長 一五 杆
郷内配電線	十五年度落成郷内發電所工専用 百長 八 杆
十和田配電線	十六年度落成十和田發電所工専用 百長 一五 杆
岩泉配電線	十五年度落成岩泉發電所工専用 百長 八 杆
松川配電線	十五年度落成松川發電所工専用 百長 一五 杆
瀧配電線	十六年度落成瀧發電所工専用 百長 一〇 杆
合計	百長 六七 杆

(四) 電力供給先

前配落成電氣工作物ヨリスル發生電力ニ對シテハ何レモ確實ナル多數ノ申込有之、到底之ガ全部ノ需用ヲ充シ難キニ付、弊社ノ使命並ニ現下産業界ノ狀勢ヨリシテ、一般電燈及小口電力ノ

東北振興電力株式會社

自然増加ニシテ避クベカラザル供給電力ノ外、特ニ重要ト認メラルル産業即チ金礦其ノ他續山事業、アルミニウム、銅、亜鉛、特殊金屬其ノ他ノ金屬工業ニ對シ主トシテ應ズルコトトシタル類ニ有之、是等各需用者ニ於テハ何レモ右受電豫定ニ對應シテ工場ヲ新設シ、又ハ電力供給設備ヲ計畫スル等特種ノ狀勢ニ有之次第ニ御座候  
右電力需用者ノ内特ニ弊社ニ於テ重要ト認メ電力供給ヲ豫定兼居産業ノ概要ハ左表ノ通ニ御座候

需用場所	需用者名	電力用途
福島縣	東北振興アルミニウム會社	アルミニウム製造用
、	日本製鍊株式會社	亞鉛精鍊用
、	日本曹達株式會社	全 右
、	保土ヶ谷曹達株式會社	鹽素酸加量製造用
、	東洋電工株式會社	黃磷、赤磷製造用

（自工部省電氣局刊）

<p>宮城縣</p> <p>平 鑄 銅 所</p> <p>鐵 興 社</p> <p>鐵 道 省</p> <p>高 玉 鑛 山</p> <p>赤 井 坑 炭 所</p> <p>磐 城 炭 鑛</p> <p>日 本 曹 達</p> <p>福 島 電 燈</p> <p>海 軍 省</p> <p>日 本 特 殊 金 屬 株 式 會 社</p> <p>三 菱 鑛 業 銅 會 鑛 山</p> <p>花 山 鑛 山</p> <p>大 谷 鑛 山</p> <p>砥 澤 鑛 山</p>										<p>岩手縣</p> <p>東 和 鑛 業 會 社</p> <p>宮 城 金 山</p> <p>三 泰 鑛 山</p> <p>元 山 鑛 山</p> <p>日 本 製 鐵 株 式 會 社</p> <p>大 同 製 鋼 株 式 會 社</p> <p>ラ サ 工 業 株 式 會 社</p> <p>松 尾 鑛 業 株 式 會 社</p> <p>日 東 化 學 工 業 株 式 會 社</p>										<p>青森縣</p> <p>松 岡 鑛 山</p> <p>坊 澤 鑛 山</p> <p>畑 鑛 山</p> <p>院 內 鑛 山</p> <p>秋 田 木 材 株 式 會 社</p>										<p>秋田縣</p> <p>秋 田 木 材 株 式 會 社</p>									
<p>特殊鋼製造用</p> <p>全 右</p> <p>汽 罐 車 工 場 用</p> <p>金 鑛 精 鍊 用</p> <p>石 炭 採 掘 用</p> <p>全 右</p> <p>特殊鋼製造用</p> <p>全 右</p> <p>船 岡 工 場 用</p> <p>特殊金屬製造用</p> <p>亞 鉛 鑛 精 鍊 用</p> <p>全 右</p> <p>金 鑛 採 掘 用</p> <p>全 右</p>										<p>製 鐵 用</p> <p>特殊鋼製造用</p> <p>硫 化 鑛 精 鍊 用</p> <p>硫 化 鑛 精 鍊 用</p> <p>アルミナ製造用</p> <p>金 鑛 採 掘 用</p> <p>全 右</p> <p>全 右</p> <p>金 銀 鑛 採 掘 用</p> <p>特殊鋼製造用</p>										<p>東北振興電力株式會社</p>																			

(日本標準規格四列)

秋田縣	株式會社田村鐵工所 三菱鑛業株式會社 阿仁鑛山 花輪鑛山 堀内鑛山 昭和鑛業株式會社 日本亞鉛株式會社	特殊鋼製造用 鋼鑛精鍊用 金鑛精鍊用 硫化鐵鑛採掘用 クローム鑛採掘用 鑛石精鍊用 亞鉛鑛精鍊用
山形縣		

尙右昭和十四年中ノ工事計畫及電力供給先ニ付テハ別添添附「昭和十三年及昭和十四年度中ニ於テ落成ヲ豫定スル電氣供給用電氣工作物中材料手當未完了ノモノ及其ノ電氣工作物ニヨル電力供給先一覽表」三葉御參照被下度候

昭和十四年中ノ鋼鑛所要高

昭和十四年中ニ於ケル弊社直營工事ノ所要鋼鑛ハ昭和十四年中ニ

東北振興電力株式會社

落成スベキ發電所及變電所ノ所内用母線並接続線、送電線路並開閉所ノ所要鋼鑛ヲ主トシ、他ニ昭和十五年度ニ於テ落成セシムベキ發電所ノ工事に用電線路トシテ所要ノモノニ有之、前記住友電線製造所ニ於テ弊社ハ電線ヲ納入スベキ時期及是等電線（鋼線）ノ應敷竝ニ住友電線製造所ガ該電線製造ノ爲鋼材ノ配給割當受クルヲ要スル時期ハ左記ノ如クニ御座候

住友電線ガ鋼材ノ配給ヲ受クルヲ要スル時期	當社ガ住友電線ヨリ鋼鑛ノ納入ヲ受クルヲ要スル時期	當社ガ住友電線ヨリ納入ヲ受クルベキ鋼鑛ノ數量
昭和十三年 十月 月上旬	昭和十四年 二月 月上旬	四〇七九噸
同 年 十一月 月上旬	同 年 三月 月上旬	四九八〇三噸
同 年 十二月 月上旬	同 年 四月 月上旬	一二〇〇一七噸
昭和十四年 一月 月上旬	同 年 五月 月上旬	一五〇四二〇噸
同 年 二月 月上旬	同 年 六月 月上旬	一六四二六一噸
同 年 三月 月上旬	同 年 七月 月上旬	一四七二三一噸
同 年 四月 月上旬	同 年 八月 月上旬	一七六六〇九噸

(日本經濟統計局刊)

同	年五月上旬	同	年九月上旬	二〇〇四〇〇
同	年六月上旬	同	年十月上旬	九〇二八〇
合計				一一九七〇〇

尙右所要數量ノ計上ニ就テハ最近我國ニ於ケル鋼材供給ノ不足ヲ考慮シ可及的節約ヲ旨トシタルモノニ有之例ハバ電線ノ太サノ如キモ將來ヲ見越シテ若干餘裕アル設計ノ如キヲナサズ當面ノ必要ニ即スベキ經濟的 최소限度ノモノニ限局シ、或ハ他電氣事業者既設送電線路ニシテ利用シ得ベキモノハ可成之ガ共居ニ依リ線路ノ新設ヲ避クル等極力鋼材ノ節約ヲ計ル趣旨ニ於テセルモノニ有之候。尙所要鋼線ノ詳細ニ就テハ添附「昭和十四年中所要鋼線圖」御査閱相賜り度候

同 續言

以上續述仕候如ク昭和十四年ニ於ケル所要鋼材一、一、七、七、五五噸ハ弊社トシテ最小限度ノモノニ有之。萬一之ガ一部タリトモ配

東北振興電力株式會社

給ヲ受クルコトノ不可能乃至納期遲延等ノ事懸キ生ゼムカ、電氣事業ノ性質上、特ニ建設途上ノ弊社ノ實際トシテ當該部分ノ工程ヲ阻マルルノミナラズ既設ノ工作物即昭和十三年中ニ於テ落成スベキ發送電設備ハ工費總額約三八、五三〇、〇〇〇圓ニ達スルモノヲ固定セシムルニ不拘充分能力ヲ發揮シ難キニ至ルチ免レズ、爲ニ弊社ノ計畫ハ甚シキ阻礙ヲ來シ、東北地方ノ水利資源ガ空シク放流セララルル結果ヲ招ク一方ニ於テ全地方ニ遍設セラレタル金、其ノ他刻下必須ノ礦産資源ハ其ノ開發ヲ阻延セララルト共ニ、現ニ弊社ヨリノ受電ヲ豫定シテ計畫中ノ隨產業工場ハ其ノ設備ヲ揃シツツ、電力缺如ノ一事ヨリシテ其ノ生産ヲ維持セララルル結果ニ陥リ、一般電燈電力ノ供給ニモ支障ヲ來ス等東北振興ノ大勢ヲ頓挫セシメ、時局ニ際スル産業總動員ノ見地ヨリスルモ洵ニ大ナル影響ヲ招來スル義ト被存候

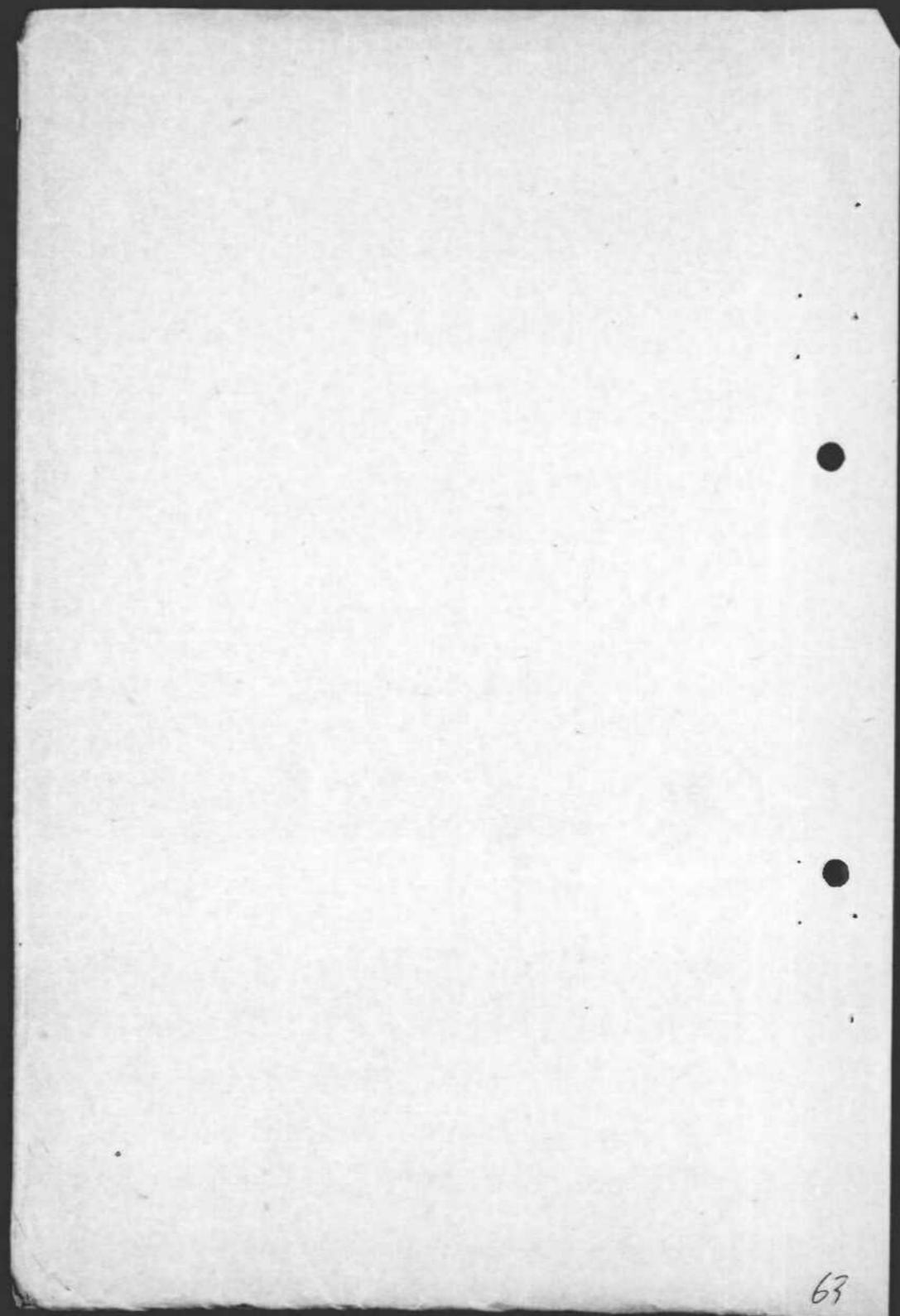
尙申ス迄モ無之候得共東北地方ニ於ケル今後ノ發電水力ノ開發ガ

(日本振興電氣株式會社)

弊社ニ獨占的ニ許可セララルル事實及諸産業ノ原動力ヲ供給スベキ  
 弊社ノ使命ヨリシテ、弊社ヘノ銅線ノ割當ハ直チニ東北地方ヘノ  
 銅線割當ヲ意味シ、弊社工程ノ範圍ハ又直チニ東北地方産業開發  
 ノ範圍ヲ括來スベキ緊密且重要ナル事業ニ置カラルル義ニ有之、何  
 卒其ノ邊御賢察ノ上弊社昭和十四年中ノ所要銅材一、一〇、七〇  
 千噸ヲシテ各所定ノ時期ニ入手可能ナル様格別ノ御配慮相煩度奉  
 悃願次第二御座候

東北振興電力株式會社

(日本經濟現況四刊)



63



東京市麴町區内幸町二丁目十一番地(仁壽ビル)

東北振興電力株式會社東京支店

電話 銀座 〇七  
代表 七六六二八番  
番 七六六二八番  
(8)







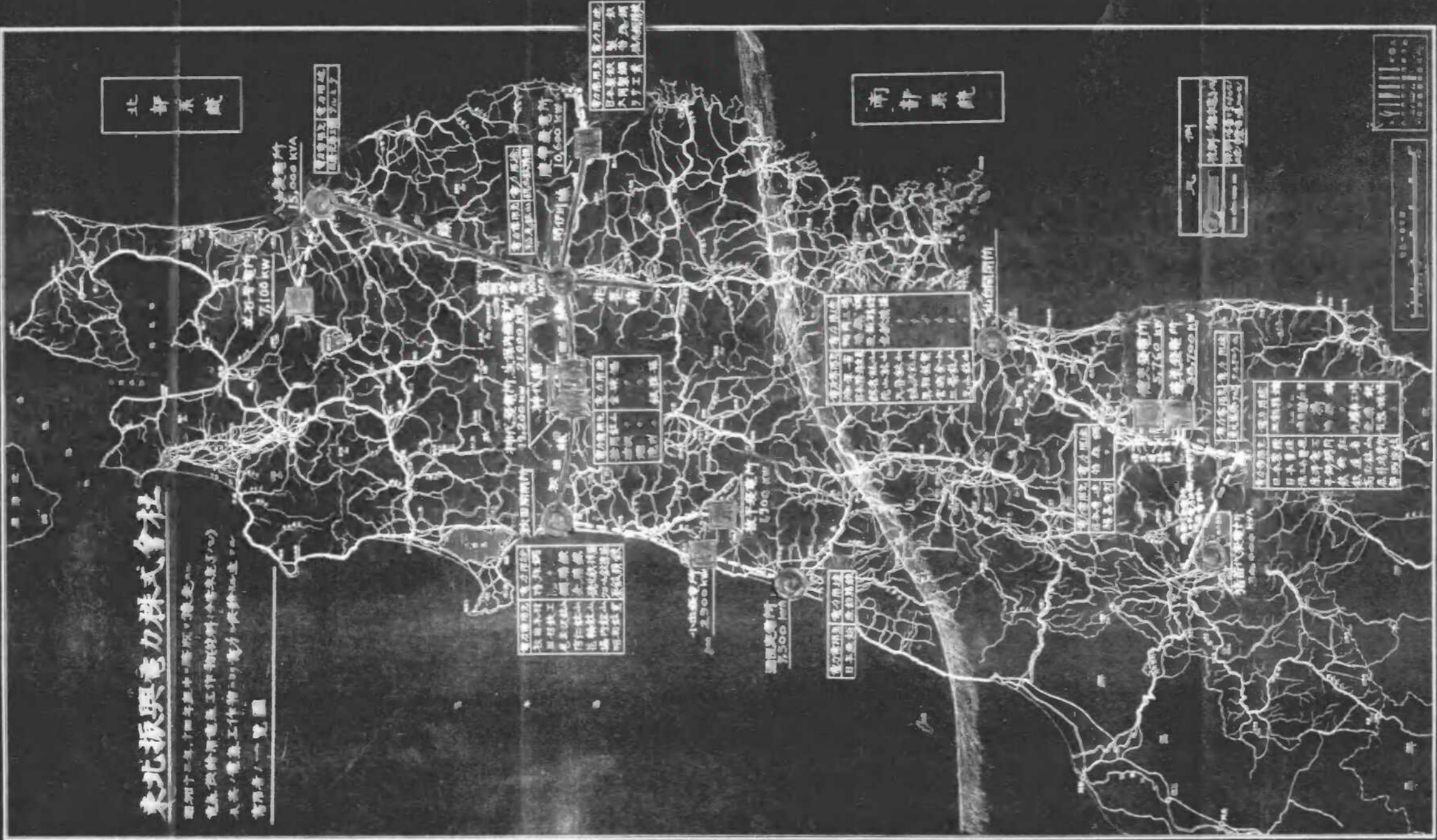


# 東北振興電力株式會社

昭和十二年、日本振興電力株式會社、東北  
 電力供給用電機工事物件供給(公營事業)として  
 大東、電機工事物件、電力供給事業として  
 有限責任を一覽圖

北部系統

南部系統



凡例	● 送電線
	○ 変電所
	□ 配電線
	■ 水力発電所
	△ 火力発電所



封筒在中物

裏面白紙

東北振興電力株式会社  
昭和十四年度所収電線調

年度	計	送電線					配電線			發電所			變電所		雜	合	總計			
		神代	秋田	田澤	清田	閉伊	八戸	花巻	松川	湯川	米内	十和田	岩手	配電				生保	神代	地線
十三年	40779																			
十三年	49803																			
十三年	120017																			
十四年	130420																			
十四年	164561																			
十四年	147238																			
十四年	176609																			
十四年	200400																			
十四年	90180																			
	119771																			

封筒在中物

東北振興電力株式会社  
昭和十四年度所要電線調

年度	所要電線(千メートル)	所要電線(千メートル)	所要電線(千メートル)	所要電線(千メートル)	所要電線(千メートル)	所要電線(千メートル)	所要電線(千メートル)												計	備考						
							一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月								
昭和十三年	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九		
昭和十四年	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	一六六九	

裏面白紙





自昭和十三年度  
至昭和十七年度

# 事業計畫書

(昭和十二年四月印刷)

(昭和十二年三月改訂)

## 東北振興電力株式會社



裏面白紙

1 : 25

事業計畫變更ノ要旨

本事業計畫ハ、曩ニ計畫セル昭和十一年度ヨリ同十七年度ニ至ル七ヶ年度間ノ事業計畫ヲ、其ノ後ノ電力需用狀勢ノ變化、水利地點ノ調査進行ニ伴ヒ判明セル開發順序ノ適否、並ニ最近ノ物價趨勢ニ基テ、諸對策等ノ點ヨリ一部改訂セルモノニシテ、主ナル改訂事項ハ需用電力ノ供給先及其ノ大サノ變更、並ニ計畫水利地點及計畫送電線路ノ變更及之等ノ落成期間ノ變更等ナリトス。

今主ナル改訂事項ニ付新舊ヲ對照スレバ左ノ通ナリ。

当社ヨリ供給スベキ需用電力（發電端換算値）

年 度	前 回 想 定 (キロワット)	今 回 想 定 (キロワット)
昭和十三年	四三六。	六二一。
昭和十四年	九二八。	一〇三一。
昭和十五年	一一七六。	一二一。
昭和十六年	一三九七。	一四八八。
昭和十七年	一五一一。	一六〇二。

計畫發電力

年 度	前 回 計 畫 (キロワット)	今 回 改 訂 (キロワット)	前回計畫對今回改訂要點
昭和十三年	蓬萊 三八七〇〇 腹帶 一〇六〇〇 立石 七一一〇〇 板平 二〇〇〇〇 白雪川 二九五〇〇 計 六一三五〇	蓬萊 三八七〇〇 腹帶 一〇六〇〇 立石 七一一〇〇 板平 一九〇〇〇 小出 二九〇〇〇 (旧跡白雪川) 計 六一二〇〇	發電力變更 板平 一〇〇減少 小出 五〇減少
昭和十四年	信夫 五七六〇 吉澤 一〇九〇〇 大谷地池 一五〇〇〇 田澤第三 二九一〇〇 計 四七二六〇	信夫 五七六〇 生保内 二一〇〇〇 (旧跡田澤第三) 神代 一九二〇〇 計 四五九六〇	發電力變更 生保内 八一〇減少 開發中止 吉澤、大谷地池 新地点開發 神代
昭和十五年	河合第一 五四〇〇 馬門 八〇〇〇 燒山 六二〇〇 計 二六一四〇	松川 六三一〇 岩泉 四五七〇 米内 五二〇〇 鄉内 一三五〇〇 計 二九五八〇	發電力變更 鄉内 六九六〇增加 新地点開發 松川、岩泉、米内
昭和十六年	茨市 五七〇〇 法量 三三三〇 田澤第三 一一〇〇〇 計 二〇〇三〇	龍 五九五〇 十和田 二一六〇〇 (馬門、燒山、併合) 計 二七五五〇	發電力變更 十和田、七四〇增加 開發中止 茨市、法量、田澤第三 新地点開發 龍
昭和十七年	用 一一九一一 計 一一九一一	安達 六四〇〇 (旧跡河合第一) 大平 五二〇〇 川井 六六〇〇 計 一八二〇〇	發電力變更 安達 一〇〇〇增加 開發中止 新地点開發 大平、川井
發電力總計	十七ヶ地點 一六六、六九一	十七ヶ地點 一八二、四九〇	

本事業計畫期間ニ於テ開發ヲ中止セルモノ

吉澤、大谷地池、田澤原三、法重、茂市、用、  
四四・三四一「キロワット」

本事業計畫期間ニ於テ新ニ開發スルモノ

松川・龍、大平、川井、岩泉、米内、神代  
五三・〇三〇「キロワット」

出力ヲ變更セルモノ

板平、小出、生保内、安達、十和田、郷内  
七一・一〇「キロワット」

増加

### 今回改訂セル事業計畫ノ概要

今回改訂セル事業計畫ヲ政府原案ト對照スレバ、政府所定ノ原案ハ未開業年度ニケ年、開業年度ハケ年、計十ケ年度間ニ發電力約一四八、〇〇〇キロワットレヲ開發スベキ計畫ナリシヲ、本事業計畫ニ於テハ、未開業年度ニケ年、開業年度五ケ年、計七ケ年度間ニ約一八三、〇〇〇キロワットレヲ開發スルコトニ變更シタルモノニシテ、計畫施設スベキ發電所ノ内容トシテハ、政府計畫ニ於テハ、水力發電所十四ヶ所、火力發電所一ヶ所ナリシ處、其ノ内水力發電所六ヶ所其ノ最大出力合計約四七、〇〇〇キロワットレ及火力發電所ヲ次期計畫ニ豫ルコトニ變更シ、之ニ代フルニ水利地点九ヶ所其ノ最大出力合計約六七、〇〇〇キロワットレヲ新ニ選定開發スルコト、シ、尚火力發電ニ代ルベキ為水期ノ補給計畫トシテハ、他系統水力發電力ヲ以テ之ヲ充當スルコトニ變更シタルモノトス。

尚本事業計畫ハ、東北地方今後ニ於ケル電力需用趨勢ノ變遷ト計畫實施ノ進展ニ伴ヒ逐次改訂セラルベキモノナリトス。

發受電計畫

計畫電力

(括弧内、數値ハ前年ニ對スル増加ヲ示ス)

年度	需社ニ於ケル計畫		豫定	想定全需用電力		備考
	豫定供給電力 (キロワット)	總發受電力 (キロワット)		自然増加 (キロワット)	特別増加 (キロワット)	
昭和十一年	1	1	1,960,000	1,890,000	1,890,000	
昭和十二年	1	1	2,060,000	2,030,000	2,030,000	
昭和十三年	61,200	68,000	2,790,000	2,150,000	5,000 (50.0%)	蓬萊 58,700 坂平 1,900 小出 2,900 腹帯 1,600 立石 7,100 計 61,200
昭和十四年	107,100	114,100	3,250,000	2,660,000	70,000 (26.6%)	徳大 5,700 生保内 2,100 神代 1,900 計 107,100

昭和十五年	136,700	142,400	3,540,000	2,880,000	80,000 (27.8%)	松川 6,300 岩泉 4,500 輝内 1,500 米内 5,200 計 136,700
昭和十六年	164,200	171,200	3,820,000	3,050,000	100,000 (33.1%)	藤 5,900 十和田 1,600 計 164,200
昭和十七年	182,400	189,400	4,060,000	3,290,000	100,000 (30.4%)	英連 6,400 大平 5,200 川井 6,600 計 182,400

昭和十一年度及十二年度ニ於ケル想定全需用電力ハ各年ノ十二月ニ於ケル実績ナリトス。

前同計畫ニ於テハ年度末ハ曆年ニテハ翌年三月ノ実績ヲ採リタルヲ以テ今回ハ之ト相違アルモノトス。

同年度ニ於ケル豫定總發受電力ハ想定全需用電力ト對應スルモノナルヲ以テ同様前同想定ト相違アルモノトス。

尚昭和十三年度ニ於ケル豫定總發受電力中既設事業者ニ屬スルモノハ二一、二〇〇、〇〇〇キロワットト想定セルモノトス。

豫定發電力

(單位「キロワット」)

發電所名	政府原案ノ對照	施設場所	使用河川名	出力	落成年度
蓬萊	阿武隈川第三地点	福島縣	阿武隈川	二六、〇〇〇	昭和十三年
信夫	阿武隈川第三地点	福島縣	阿武隈川	二〇、〇〇〇	昭和十四年
安達	阿武隈川第一地点	福島縣	阿武隈川	二、三〇〇	昭和十七年
松川	新水利地点	宮城縣	阿武隈川支流 松川	二五、二〇〇	昭和十五年
瀧	新水利地点	福島縣	鼓川	二、三七〇	昭和十六年
大平	新水利地点	山形縣	最上川支流 大平川	二、二五〇	昭和十七年
板平	新水利地点	秋田縣	子吉川支流 板平川	二、二五〇	昭和十五年
小出	新水利地点	秋田縣	白雪川	一、九〇〇	昭和十三年
郷内	新水利地点	秋田縣	子吉川	一、三、五〇〇	昭和十五年
腹帯	宮古川第二地点 三股川第一地点 三股川第二地点	岩手縣	閉伊川	四、一〇〇	昭和十三年

川井	宮古川第二地点	岩手縣	閉伊川	二、一〇〇	二、一〇〇	四、五〇〇	六、六〇〇	昭和十七年
岩泉	新水利地点	岩手縣	小本川	三、二八〇	三、二八〇	一、二九〇	四、五七〇	昭和十五年
米内	新水利地点	岩手縣	北上川支流 米内川	一、七〇〇	一、七〇〇	三、五〇〇	五、二〇〇	昭和十五年
十和田	新水利地点	青森縣	奥入瀬川	一、一八〇	一、一八〇	一、〇八〇	三、一六〇	昭和十六年
立石	奥入瀬川第一地点	青森縣	奥入瀬川	六、四五〇	七、一〇〇	六、五〇〇	七、一〇〇	昭和十三年
生保内	田澤第二地点	秋田縣	玉川	九、八〇〇	一、八〇〇	一	二、一〇〇	昭和十四年
神代	田澤第四地点	秋田縣	玉川	九、六〇〇	九、六〇〇	九、六〇〇	一、九二〇	昭和十四年
計	政府原案八地点 新水利地点九地点 計十七地点			七八、三〇〇	一〇六、三一〇	九三、二六〇	一八二、四九〇	

豫定受電力

供給者名	受電地点 ノ名	受電地点 ノ位置	補給 力	受電地点 ノ出力 (KVA)	受電 時期	備考
東北送電	仙台開閉所	仙台市原町	八〇〇	八〇〇	昭和十四年 四月	受電期間 毎年四月至十一月 最大出力 毎時電力
東京電燈	福島送電所	福島市	七〇〇	七〇〇	昭和十四年 四月	受電期間 毎年六月八日 至十一月

發受電計畫ノ説明

計畫電力

1. 本計畫ニ於ケル電力ハ總テ發受電端ニ換算セル最大電力(單位「キロワット」)トス。
2. 想定全需用電力ハ東北地方全需用電力ノ意味ニシテ毎年十二月ニ於ケルモノトス。但シ今後當社ヨリ供給スベキ特殊電力ハ總テ加算セリ。右想定全需用電力ノ内昭和十一年度及令十二年度ノモノハ需用実績ナリトス。

3. 豫定總發受電力ハ毎年度末ニ於ケル既設電氣事業者ノ供給可能發受電力ト、當社ノ計畫最大發受電力トヲ合計シタル東北地方全供給可能電力ノ意味ナリトス。  
既設電氣事業者ノ供給可能發受電力ハ當該年度ニ於ケル許可出力ヲ基本トシ之ニ適當ノ推定ヲ加ヘタルモノナリトス。
4. 當社ニ於ケル計畫ノ内豫定發電力ハ當該年度ニ落成スベキ當社ノ發電所最大出力ノ累計額トシ、豫定受電力ハ實際計畫受電々力ノ内發電所最大出力ニ加算シテ直接供給ニ充當シ得ベキ電力ノミヲ掲ゲタルモノトス。

豫定發電力

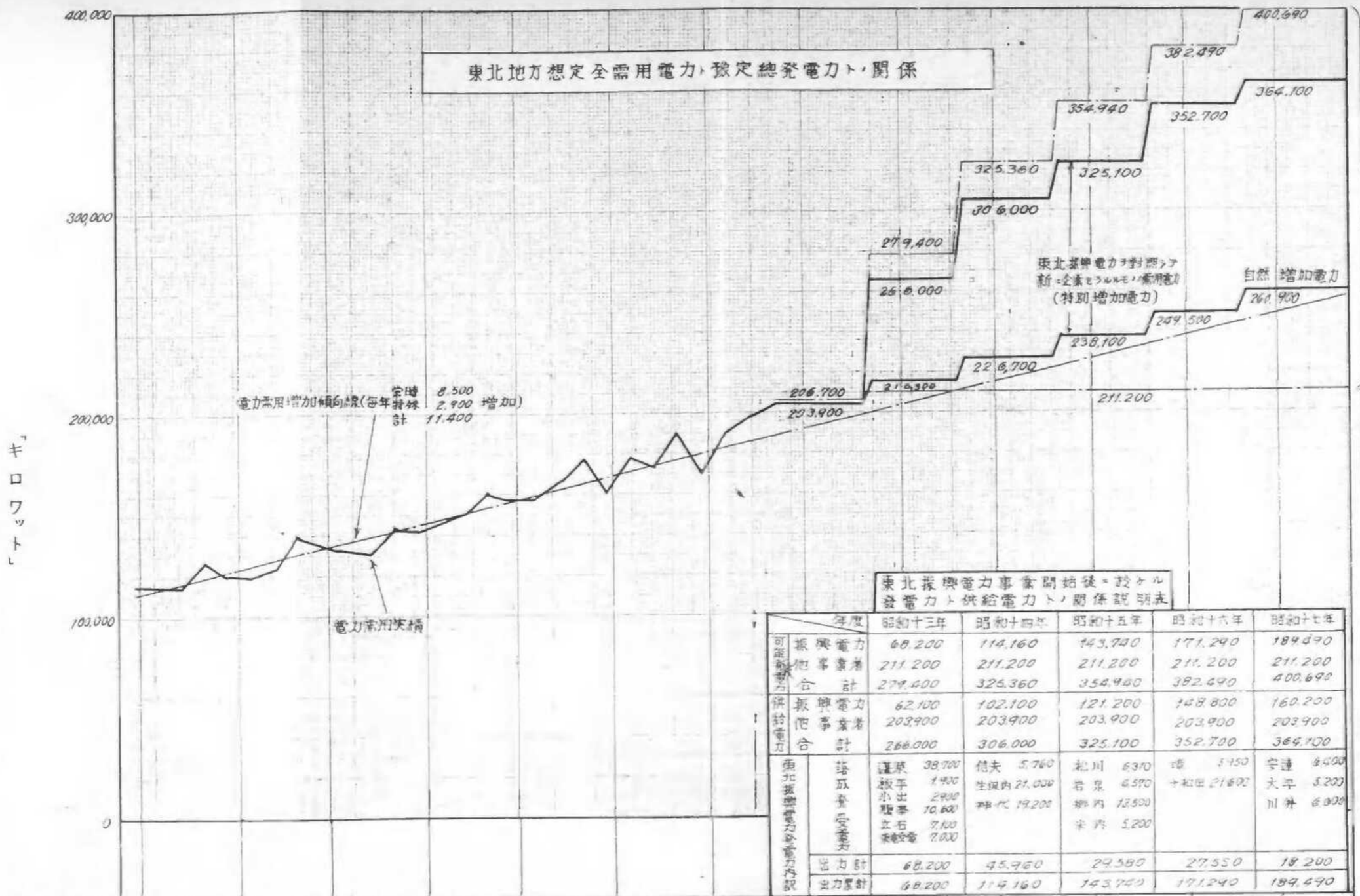
豫定發電力ハ豫定總發電力中當社ニ於テ開發スベキ發電所ノ概要ヲ示セルモノナリ。



豫定發電力ノ内、生保内及神代ノ兩發電所ハ、田澤湖ノ水位調節ニヨリ  
火力發電ニ代ヘテ北部地方他水系發電力ノ湯水補給用ニ充當スルモノト  
ス。

豫定受電力

豫定受電々力ノ内、東京電燈會社ヨリ受電スル補給ハ。○。○キロワツ  
トシ及東北送電會社ヨリ受電スル融通ハ。○。○キロワツトシハ阿武隈  
川系發電力ノ夏季湯水補給用乃至之カ補充用ニ充當シ、東京電燈會社ヨリ  
受電スル特殊セ。○。○キロワツトシハ特殊電力ノ増加供給用ニ充當ス  
ルモノトス。



東北振興電力事業開始後ニ於ケル  
発電力ト供給電力トノ関係説明表

年度	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年
振興電力	68,200	114,160	143,740	171,240	189,490
他事業者	211,200	211,200	211,200	211,200	211,200
合計	279,400	325,360	354,940	382,490	400,690
供給電力					
振興電力	62,100	102,100	121,200	148,800	160,200
他事業者	203,900	203,900	203,900	203,900	203,900
合計	266,000	306,000	325,100	352,700	364,100
東北振興電力発電力内訳					
送出計	68,200	45,960	29,580	27,550	18,200
出力累計	68,200	114,160	143,740	171,240	189,490
管内					
管外					
管内	38,700	5,760	6,370	1,150	4,000
管外	1,900	21,000	4,590	21,600	5,200
管内	2,900	19,200	18,500		6,000
管内	7,600		5,200		
管内	7,000				

月	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3		
年度	昭和六年度			昭和七年度			昭和八年度			昭和九年度			昭和十年度			昭和十一年度			昭和十二年度			昭和十三年度			昭和十四年度			昭和十五年度			昭和十六年度			昭和十七年度			昭和十八年度		
暦年	昭和六年			昭和七年			昭和八年			昭和九年			昭和十年			昭和十一年			昭和十二年			昭和十三年			昭和十四年			昭和十五年			昭和十六年			昭和十七年			昭和十八年		

振興電力ノ施設スル発電力  
他事業者ノ所有スル発電力

裏面白紙

二送變電計畫

豫定送電線路

名 稱	區 間	長 度 (杆)	電 壓 (ボルト)	回線數	支持物	送電容量 (キロワット)	落成豫定年度
仙 台 線	蓬萊發電所 四五号鉄塔(新米橋島開所) (新米橋島線)	一一〇 八四	六六〇〇〇	一 二	鉄 塔	一〇〇〇〇	昭和十三年 (一回線) 昭和十六年 (一回線増設)
	四五号鉄塔 仙台變電所 (將來廢止ノ部分)	七六三	六六〇〇〇	一	木 柱		昭和十三年
仙 台 (新) 線	福島開閉所 仙台變電所	七五〇	線杆二〇〇〇〇 地分六六〇〇〇	二	鉄 塔	三二〇〇〇	昭和十六年
	松川發電所 大河原開閉所	一一五	六六〇〇〇	一	木 柱	二三八〇〇	昭和十五年
磐 梯 線	東電秋元發電所 福島開閉所	三四〇	線杆二〇〇〇〇 地分六六〇〇〇	一 二	鉄 塔	五三〇〇〇	昭和十六年

大 平 線	大平發電所 福島電燈水沢發電所	一一〇	三三〇〇〇	一	木 柱	二二四〇〇	昭和十七年
郡 山 線	蓬萊發電所 大日本電力郡山發電所	三四八	六六〇〇〇	二	鉄 塔	六八〇〇〇	昭和十三年
櫻 井 (アルミ) 支線	郡山開閉所 東北櫻井アルミ郡山工場	二九	六六〇〇〇	二	鉄 塔	八四七〇〇	昭和十三年
信 夫 連 絡 線	蓬萊發電所 信夫發電所	三〇	六六〇〇〇	一	木 柱	二三八〇〇	昭和十四年
安 達 支 線	安達發電所	三五	六六〇〇〇	二	鉄 塔	五五二〇〇	昭和十七年
滝 線	滝發電所 大日本電力平發電所	二〇	六六〇〇〇	一	木 柱	二七六〇〇	昭和十六年
十 和 田 線	十和田發電所 立石發電所 五岳發電所 八戸發電所	七五 四二〇	六六〇〇〇	二	鉄 塔	五〇〇〇〇	昭和十六年 (昭和十三年 (五石八戸間一回線))
八 戸 線	盛岡發電所 八戸發電所	二五〇	六六〇〇〇	一	木 柱	九五〇〇	昭和十四年

小出連絡線	板平連絡線	庄内線	酒田線
小出發電所 大日本電力小滝線	板平發電所 大日本電力小滝線	酒田發電所 山形電力長崎發電所	御内發電所(小出發電所 經由)若田發電所
間	間	間	間
三、八	二、五	一、〇	五、三
六六、〇〇	六六、〇〇	六六、〇〇	六六、〇〇
一	一	二	一
木	木	鉄	木
柱	柱	塔	柱
二、二、八〇	二、二、八〇	一、五、〇〇	一、四、〇〇
昭和十三年	昭和十三年	昭和十六年	昭和十五年

島海線	秋田線	神代線	田澤線	花巻線	小本線	宮古線	閉伊川線
秋田発電所	神代発電所	生保内発電所	盛岡美発電所	盛岡美発電所	宮古発電所	宮古発電所	盛岡美発電所(米内発電所 川井発電所)盛岡美発電所
間	間	間	間	間	間	間	間
六、二	六、七	四、〇	四、〇	三、五	一、六	六、八	六、八
六六、〇〇	六六、〇〇	六六、〇〇	六六、〇〇	六六、〇〇	六六、〇〇	六六、〇〇	六六、〇〇
一	二	二	二	一	一	一	一
鉄	鉄	鉄	鉄	木	鉄	鉄	鉄
塔	塔	塔	塔	柱	塔	柱	塔
一、二、〇〇	五、三、〇〇	九、七、〇〇	六、〇、〇〇	二、〇、〇〇	二、七、六〇	一、二、〇〇	一、二、〇〇
昭和十五年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十五年	昭和十三年	昭和十四年

豫定變電所

名稱	位置	出 (KVA)	電壓			落成豫定年度
			一次(V)	二次(V)	三次(V)	
仙台	仙台市 原ノ町	七五〇	五七〇〇	三三〇〇	二二〇〇	昭和十三年 (開關所トシテ落成)
猪苗代	福島縣河沼郡 日橋村	二一〇〇	六三〇〇	六六〇〇	—	昭和十四年
八戸	八戸市小中野 町字田畑二九	三〇〇〇	五八〇〇	一一〇〇〇	—	昭和十四年 (一五、〇〇〇KVA)
盛岡	盛岡市	九〇〇〇	五七〇〇〇	三三〇〇〇	—	昭和十四年
秋田	秋田市	七五〇〇	五七〇〇〇	一一〇〇〇	—	昭和十五年
酒田	酒田市	一五〇〇〇	五七〇〇〇	三三〇〇〇	一一〇〇〇	昭和十五年 (一七、五〇〇KVA)

送電計畫ノ説明

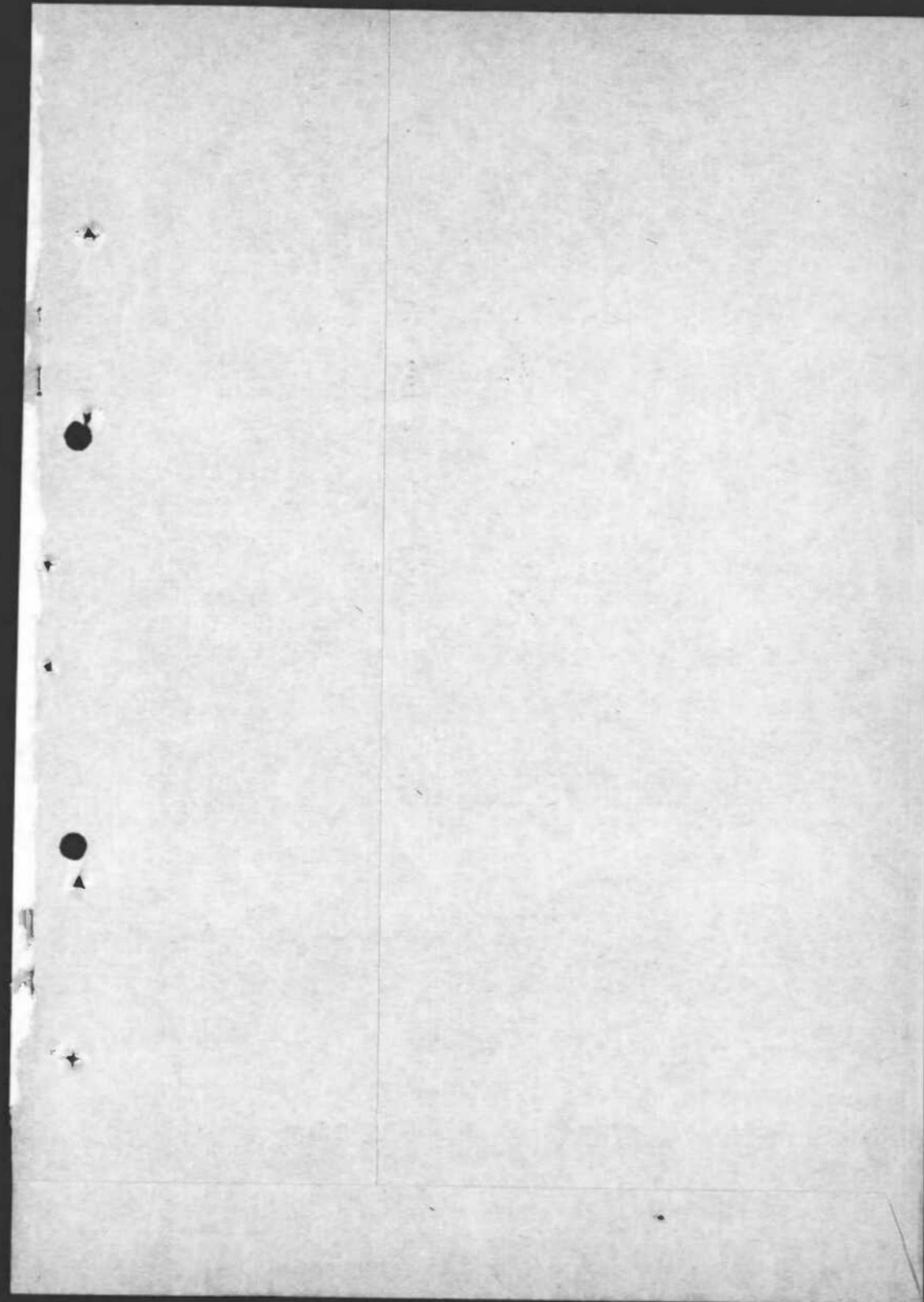
豫定送電線路

豫定送電線路ハ、當社ニ於テ施設スル送電線路ノ概要ヲ示スモノトス  
 今表中送電容量ハ送電區間ノ電力損失ヲ考慮シタルモノトス。

豫定変電所

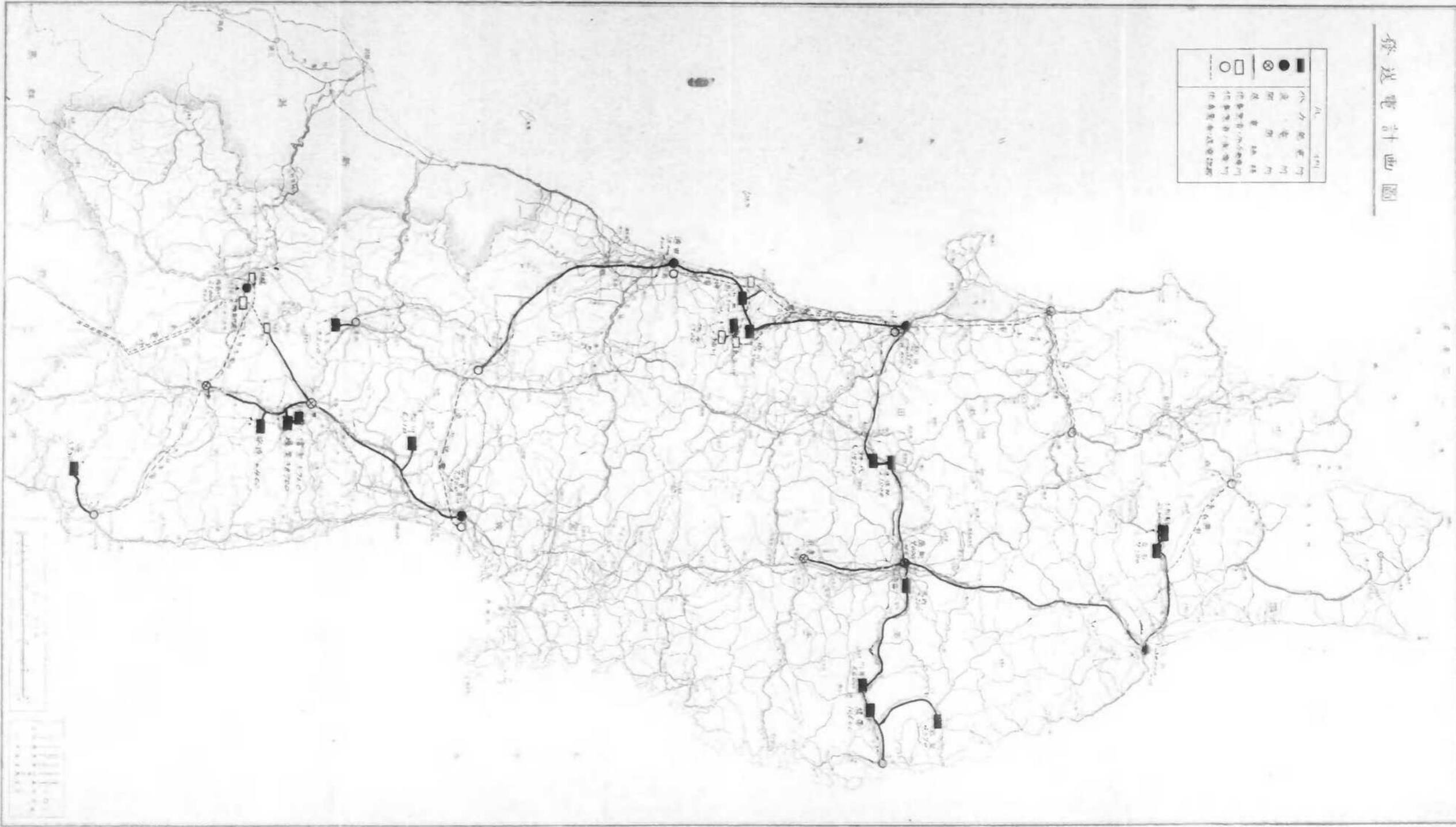
豫定変電所ハ當社ニ於テ施設スル変電所ノ概要ヲ示スモノトス。  
 変電所ノ二次或ハ三次電壓ハ之ト連絡スヘキ需用者ノ線路電壓ヲ考慮シ  
 タルモノトス。

發送電計畫圖



發送電計劃圖

凡例	
■	電力廠
●	送電所
⊗	送電線
○	送電線
□	送電線
○	送電線
○	送電線



23

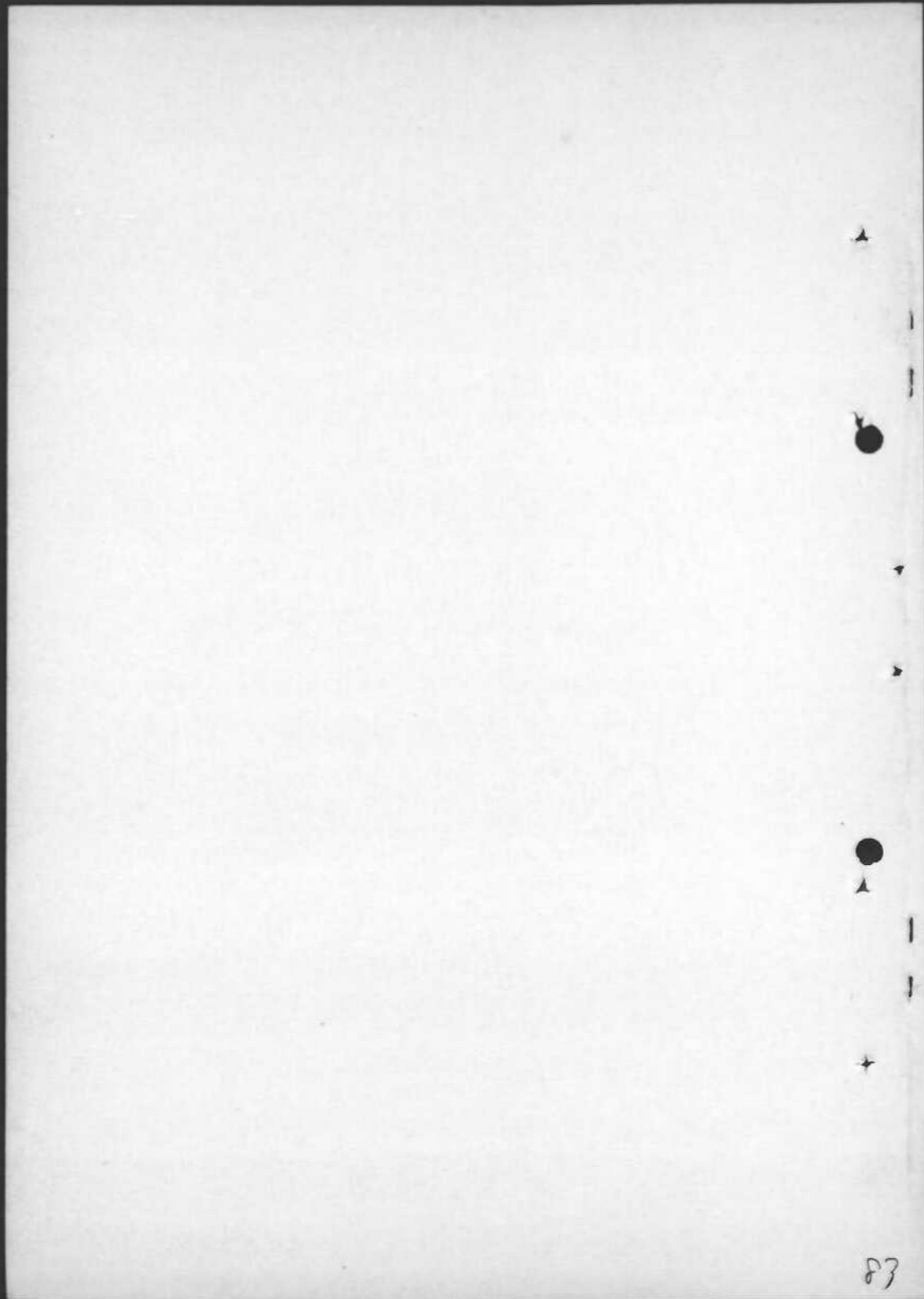


1 : 3 2

裏面白紙

封筒在中物





裏面白紙

83

1 : 25



自昭和十三年  
至昭和十七年度

(昭和十三年四月印刷)

# 事業計畫說明書

(昭和十三年三月改訂)

東北振興電力株式會社

裏面白紙

124  
84

## 一 事業計畫期間

本事業計畫ハ、東北六縣電氣事業ノ昭和十二年及ニ於ケル電力需用實績ヲ基本トシ昭和十三年度以降五ヶ年度間ノ電力需用狀勢ヲ想定シ之ニ對應セシムベキ發送電計畫ノ大要ヲ定メタルモノトス。

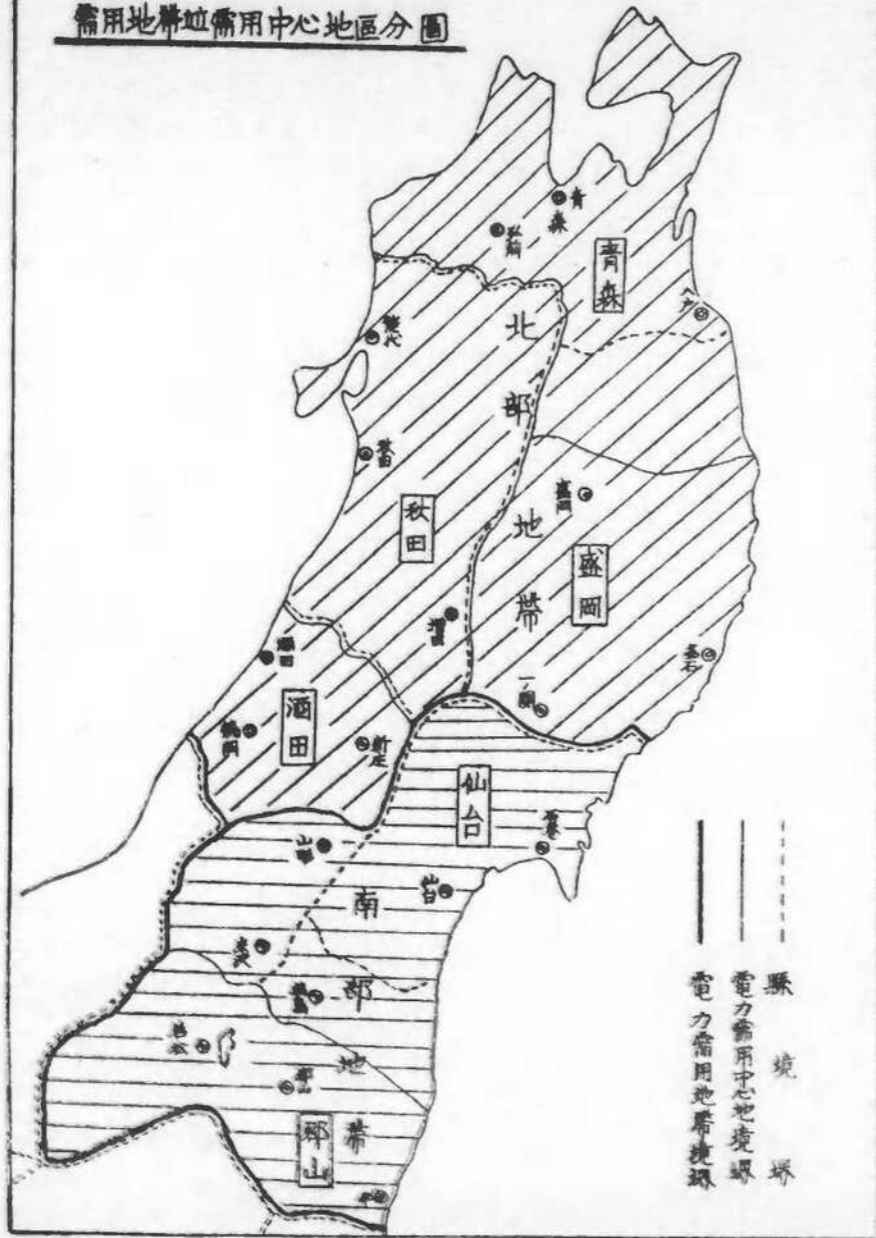
事業計畫期間ハ可及的長期間ニ亘ルヲ適當トスルモノナルモ、之ガ基本トナルベキ電力需用ノ趨勢ハ、最近ノ經濟取諸事情ニ影響サルコト大キク、特ニ當社ノ如ク豊富低廉ナル電力ヲ供給シ地方産業開發ノ目的ヲ以テ新ニ需用ヲ喚起セムトスルモノニ在リテハ、長期間ニ亘リ其ノ消長ヲ適確ニ捕捉スルコト困難ナルモノアル事情アリ、之ニ加ヘテ未ダ未開發水利地点ノ調査亦充分ナラザルモノモアリ、依リテ取敢テ諸工事を要スル期間ヲモ參酌シ略見適シ確實ト見ラレ、五ヶ年度間ノ計畫ヲ樹テタルモノトス。

## 二 電力需用ノ想定

電力需用ノ想定ハ、東北地方電氣事業ノ昭和六年ヨリ同十二年ニ至ル七年間ノ發受電端ニ於ケル電力供給實績ヨリ求メタル電力需用增加傾向ヲ基本トシ、之ニ最近ノ電力需要增加趨勢、當社ノ豊富低廉ナル電力供給ニ基ク諸産業ノ勃興及東北興業會社ノ諸計畫等ヨリ推定セラルル需用電力ノ増加ヲ加算（需用地ニ於ケル想定需用電力ヲ送電損失セコバセントレ）不等率一〇七トシテ發電端ニ換算ノ上加算セリシテ東北地方全當社ヨリ供給スベキ電力トスルコトトセリ。

右ノ想定ハ之ニ對スル發送電計畫ヲ合理的ナラシムル爲ニ、開發スベキ發電所ヲ對象トシテハ、略調査ヲ了シタル開發可能發電地点トノ地理的關係、既設電氣事業者ノ供給區域、電力潮流、電力需用密度等ノ点ヨ

需用地帯並需用中心地区分圖



此等區分は東北地方を南北ノニ大地帯ニ區分シ施設スベキ送電線路ヲ對  
 照トシテハ右地帯ヲ更ニ六個ノ需用地ヲ中心トスル地域ニ區分シテ之ヲ  
 行ヘリ。  
 電力需用地帯及需用中心地ノ區分ハ左圖ノ通トス。

右ニヨリ想定セル當社ヨリ供給スベキ需用電カハ左表ノ通トス。  
同表ノ内昭和十三年度ニ於ケルモノハ當社ニ對スル需用申込ヲ基礎トシ  
タルモノニシテ略確實ナリト思料スル處ナリトス。

需 用 者 別 需 用 電 力

地 帯	需用中心地	発電者名	電力用途	想 定 需 用 電 力																			
				昭和十三年度				昭和十四年度				昭和十五年度				昭和十六年度				昭和十七年度			
				常時	特殊	補給	最大	常時	特殊	補給	最大	常時	特殊	補給	最大	常時	特殊	補給	最大				
南	仙 台	宮城県 一般電気供給事業	7000	0	0	9000	8000	0	0	8000	9000	0	0	9000	10300	0	0	10300	11600	0	0	11600	
		仙台市 全 上	2000	0	0	2000	2000	0	0	2000	2000	0	0	2000	2200	0	0	2200	2400	0	0	2400	
		福島電灯 全 上	2000	0	0	2000	2000	0	0	2000	2000	1000	0	3000	2500	1000	0	3500	3200	1000	0	4200	
	小 計		11000	0	0	11000	12000	0	0	12000	13000	1000	0	14000	15100	1000	0	16100	17200	1000	0	18200	
	郡 山	大日本電力 一般電気供給事業	8000	5000	0	13000	10000	2000	0	12000	12000	9000	0	21000	13000	1000	0	22000	14500	13000	0	27500	
日北電力其他 全 上		0	2000	0	2000	0	2000	0	2000	0	2000	0	2000	1000	2000	0	3000	1500	3000	0	5300		
東北電力其他 7112-10A製造		6500	6500	0	13000	6500	6500	0	13000	6500	6500	0	13000	6500	6500	0	13000	6500	6500	0	13000		
其他工場 化学工業		0	3000	0	3000	0	3000	0	3000	0	3000	0	3000	0	3000	0	3000	0	3000	0	3000		
小 計		14500	16500	0	36000	16500	18500	0	35000	18500	20500	0	39000	24500	22400	0	43900	22500	26300	0	48900		
合 計		25500	16500	0	47000	28500	18500	0	47000	31500	21500	0	53000	35600	24400	0	62000	19700	27300	0	67000		
北	盛 岡	盛岡電灯 一般電気供給事業	8000	6000	0	10000	9500	2500	6000	12000	10900	2500	6000	13400	12300	2500	6000	14800	13700	2500	6000	16200	
		一ノ関町 全 上	400	0	0	400	300	0	0	300	2200	0	0	2200	2200	0	0	2200	2200	0	0	2200	
	小 計		4200	6000	0	10400	10300	2500	6000	12900	13100	2500	6000	15600	14500	2500	6000	17000	15900	2500	6000	18400	
	青 森	青森縣 一般電気供給事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	0	0	300	300	0	0	300	
		日北化学 7112-10A製造	2200	2800	0	5000	5000	5000	0	10000	5000	5000	0	10000	5000	5000	0	10000	5000	5000	0	10000	
其他工場 化学工業		0	0	0	0	0	0	0	0	3000	0	0	3000	3000	6000	0	9000	3000	6000	0	9000		
小 計		2200	2800	0	5000	5000	5000	0	10000	8000	5000	0	13000	8300	11000	0	19300	8900	11000	0	19900		
秋 田	大日本電力 一般電気供給事業	1500	0	1500	1500	13000	0	0	13000	15000	0	0	15000	16500	0	0	16500	15000	0	0	17000		
	増田水力 全 上	0	0	0	0	2000	0	0	2000	2000	0	0	2000	2000	0	0	2000	2000	0	0	2000		
	赤岡高圧工業 硫酸製造工業	0	3200	0	3200	8000	8000	0	16000	8000	8000	0	16000	8000	8000	0	16000	8000	8000	0	16000		
	東北興業 化学工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5000	5000	0	10000	5000	5000	0	10000		
小 計		1500	3200	1500	4700	23000	8000	0	31000	25000	8000	0	33000	31500	13000	0	46500	32000	13000	0	45700		
酒 田	酒田市其他 一般電気供給事業	0	0	0	0	1300	0	0	1300	2600	0	0	2600	2900	0	0	2900	5200	0	0	5200		
	酒田硝磺其他工場 化学工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4000	0	4000	0	4000	0	4000	0	4000	0	4000		
	小 計		0	0	0	0	1300	0	0	1300	2600	4000	0	6600	2900	4000	0	7900	5200	4000	0	9200	
合 計		8100	12000	1500	20100	32600	15500	6000	55100	48700	19500	6000	68200	58300	38500	6000	88300	62700	36500	6000	93200		
總 計		33600	28500	1500	64100	68100	34000	6000	102100	80200	41000	6000	121200	93900	58900	6000	148800	102400	57800	6000	164200		

裏面白紙

三、發電計畫

前記電力需用想定ニ基テ發電計畫ハ左表ノ通トス。

全表ノ内玉川系ニ發電所ハ、田澤湖ノ水位調節ニヨリ當分大カ發電ニ代  
リテ北郷地帯内他ノ水系ノ發電力ノ過水補給用ニモ充當スルモノナリト  
ス。

尙全表中昭和十五年度以降ニ於テ暮成スベキモノハ未ダ充分調査完了セ  
ザルモノアルヲ以テ、今後調査進行ニ伴ヒ、設計ノ變更ヲ爲シ或ハ他ノ  
有利ナル地点ト振替フルコトアルモノトス。

水力発電所

地帯	発電所名	発電所位置	水名及河川名	取水口位置	放水口位置	貯水池の有無	使用水量		落差	発電所出力(キロワット)	周波数	工事費概算(円)			工事着手年月	工事竣工年月	備考					
							最大	平均				水	電	計								
南	遠萊	高尾山	阿武隈川	高尾山	高尾山	有	5800	1950	92.50	44,100	38700	26000	13000	25700	50	2,267,500	2,777,200	1,208,000	12-1	13-11	工事進行中(15,000W)	
	信夫	高尾山		高尾山	高尾山	有	5800	1974	12.17	6894	5760	2060	2050	3700	50	2,790,100	962,900	355,000	12-3	10-8	計画中	
	安達	高尾山		高尾山	高尾山	有	5000	1800	15.50	2395	6400	2300	2300	4200	50	1,697,500	1,502,500	3,442,000	15-6	17-11	未申請	
	松川	高尾山		高尾山	高尾山	有	500	200	151.50	7820	8310	2520	2520	3790	50	1,807,000	977,000	2,106,000	13-4	15-11		
	滝	高尾山	秋川	高尾山	高尾山	有	830	370	72.00	9020	5950	2950	2390	3580	50	1,572,000	942,000	2,455,000	14-6	16-11		
北	大平	高尾山	最上川	高尾山	高尾山	有	160	890	398.00	6120	3200	2250	2250	2750	50	1,742,000	302,000	2,189,000	15-6	17-11		
	計															15,902,300	11,877,600	26,887,000				
北	板平	高尾山	子吉川	高尾山	高尾山	有	870	837	342.50	2382	1900	1900	800	1100	50	1,117,500	332,500	993,000	12-6	13-11	計画中	
	小出	高尾山	白雲川	高尾山	高尾山	有	225	277	158.65	3501	2900	2900	1200	1790	50	1,157,000	370,000	1,948,000	12-5	13-11		
	郷内	高尾山	子吉川	高尾山	高尾山	有	1500	800	110.10	14185	13,500	6750	3700	9800	50	3,110,000	1,678,000	2,728,000	13-2	13-11	計画中	
	腹帯	高尾山	阿武隈川	高尾山	高尾山	有	1870	528	21.80	17225	10,800	4100	4100	6500	50	3,427,000	1,178,000	2,175,000	12-2	13-11	計画中	
	川井	高尾山		高尾山	高尾山	有	1325	622	88.10	9030	6600	3100	2100	4500	50	1,571,000	780,000	2,379,000	15-6	17-11	未申請	
北	岩泉	高尾山	小木川	高尾山	高尾山	有	242	355	58.10	5380	4500	3280	3280	1290	50	952,000	701,000	1,300,000	13-4	15-11		
	米内	高尾山	米内川	高尾山	高尾山	有	460	150	144.00	8310	5200	1700	1700	3500	50	1,004,000	990,000	2,286,000	13-6	15-11		
	千和田	高尾山	契入瀬川	高尾山	高尾山	有	1730	665	174.00	25286	21,600	10800	10800	19800	50	3,562,000	2,600,000	3,337,000	17-2	18-11	計画中	
	立石	高尾山		高尾山	高尾山	有	1500	1262	55.88	8232	9,100	9,100	5450	650	50	2,246,400	896,600	1,091,000	12-4	13-11	計画中	
	生保内	高尾山	玉川	高尾山	高尾山	有	5000	2340	51.92	35250	21,000	18,000	9800	-	50	2,142,000	2,015,000	1,032,000	12-11	14-11	計画中	
北	神代	高尾山		高尾山	高尾山	有	4000	2000	58.34	22411	19,200	9600	9600	9600	50	5,097,500	2,901,500	2,220,000	12-11	14-11	未申請	
	計															32,641,000	15,726,600	47,777,000				
北	計															18,249,000	106,310,000	78,030,000	932,600			

裏面白紙



### 受電計畫

南部地帯ノ豫定開發發電所ハ玉川系發電所ヨリ遠隔ノ地ニアリ、當分  
之ト經濟的ニ充分ナル連繫ヲ爲スコト困難ナル處迪々豫定發電力ノ大  
半ヲ占ムル阿武隈川系三發電所ハ一級水系ト異リ、冬季ニ於ケル湯水  
比較的少ク、夏季ニ於テ甚シキ狀態ナルニ付、補給方法トシテハ  
之ト直接シ、流況ヲ異ニスル他水系發電所ヨリ受電スルヲ得策ナリト  
認メ、供給電源充實ヲモ兼ネテ猪苗代湖及其ノ附近ノ湖水ヲ利用シテ  
大電力ヲ自由ニ調節シ得ル東京電燈會社ヨリ受電スルト共ニ、夏季比  
較的流量豊富ナル山形電氣會社ノ遊尖頭負荷時餘剩電力ヲ東北送電會  
社ヲ通ジテ受電スルコトトセリ、山形電氣會社ヨリノ受電々カハ阿武  
隈川系送電發電所ノ出力調整能力ヲ利用シテ良質化ノ上供給スル豫定  
ナリトス。

計畫受電々カハ左表ノ通トス。

## 受 電 設 備

受電地点 ノ 名 稱	受電地点位置	供給者名	受電地点出力 (キロワット)						受電期間	周波數	受電電壓 (ヴォルト)	受電開始 豫定年月	電線ノ 種類
			最大	常時	常時	特殊	補給	原備					
東京電燈株式会社 精舎代三受電所	福島縣河沼郡 日 橋 村	東京電燈株式会社	15,000	-	-	7,000	8,000	-	補給 毎年 6.7.8月 特殊 毎年 4-11月	50	6,600	昭和 14-4	未申請
仙台開閉所	仙台市原ノ町	東北送電株式会社	8,000	-	-	-	-	8,000	毎年 4-11月	50	66,000	昭和 14-4	未申請

裏  
面  
白  
紙

## 送電計畫

送電計畫ハ當分東北地方全般ニ亘リ必要ナル電力ノ需給ニ支障ヲ來サ  
ザル様充分ナル容量ヲ有シ且 北部地帯ニアリテハ玉川系發電地点ト  
其ノ他ノ計畫地点トノ連繫ニ支障ヲ生ゼザル様計畫セルモノナリ。  
尙本計畫ニ當リテハ他ノ事業者ノ既設送電線路ニシテ利用シ得ルモノ  
ハ充分之ヲ利用スルコトトセリ。

計畫送電線路及計畫發電所ハ次表ノ通トス。

送 電 線 路

送電線路名	區 間	直 長 (km)	回 線 数	最大電壓 (V)	電線太さ (mm <sup>2</sup> )	支持物 種類	送電容量 (KW)	工 事 費 (円)		工事着手 年度	工事完成 年度	官廳=對 進捗ノ横線
								總 額	Km 當			
仙台線	自蓬萊(東)至大寺塔	11.0 (8.4)	2	66,000	55	鉄塔	10,000	225,000 (147,000)	20,455 相取	12-10 15-7	13-11 18-11	許可申請中
	福島開閉所	-	-	-	-	-	-	-	-	15-8	15-11	未申請
	自大寺塔至仙台(東)	26.3	1	66,000	55	木柱	32,000	636,000	9,336	12-5	13-11	許可申請中
仙台(新)線	自福島(開)至仙台(東)	25.0	2	66,000 (開 110,000)	90	鉄塔	32,000	1,559,000	20,787	15-7	18-11	未申請
松川支線	自松川(開)至大河原(開)	11.5	1	66,000	38	木柱	22,800	85,000	8,371	13-10	18-11	-
磐梯線	自大平(東)至福島(開)	34.0	1	66,000 (開 110,000)	90	鉄塔	33,000	608,000	17,912	15-7	18-11	-
大平線	自大平(東)至福島(開)	11.0	1	33,000	38	木柱	11,400	59,000	5,364	17-6	18-11	-
郡山線	自蓬萊(東)至大日堂郡山(東)	34.8	2	66,000	90	鉄塔	62,400	757,000	21,053	12-7	13-11	認可申請中
	郡山開閉所	-	-	-	-	-	-	-	-	14-2	15-3	未申請
板野アルミ支線	自郡山(開)至北原郡山工場	2.9	2	66,000	90	鉄塔	84,700	61,000	21,034	12-11	13-11	-
信夫連絡線	自蓬萊(東)至信夫(東)	3.0	1	66,000	38	木柱	22,800	21,000	7,800	14-4	14-8	許可申請中
安達支線	自安達(東)至郡山線	3.5	2	66,000	55	鉄塔	55,200	57,000	16,857	17-4	18-11	未申請
滝線	自滝(東)至大日堂平(東)	20.0	1	66,000	55	木柱	27,600	168,400	8,250	15-11	18-11	-
十和田線	自十和田(東)至立石(東)	2.5	2	66,000	55	鉄塔	30,000	131,000	17,450	15-5	16-11	-
	自立石(東)至八戸(東)	42.0	2	66,000	55	木柱	9,500	678,000	16,648	12-5 15-5	13-11 16-11	許可申請中
八戸線	自盛岡(東)至八戸(東)	115.0	1	66,000	55	木柱	9,500	950,000	8,251	13-4	14-11	未申請
閉伊川線	自盛岡(開)經水内川(開)至盛岡(開)	68.0	1	66,000	55	鉄塔	11,000	904,000	13,235	13-7	14-11	-
宮古線	自盛岡(開)至盛岡宮古(東)	16.5	1	66,000	55	木柱	29,600	192,000	11,636	12-6	13-11	許可申請中
小本線	自岩手(東)至宮古(東)	35.0	1	66,000	55	鉄塔	21,000	465,000	13,286	14-4	15-11	未申請
花巻線	自盛岡(東)至花巻(開)	40.0	1	66,000 (開 66,000)	38	木柱	3,000	290,000	7,250	14-4	14-11	-
田澤線	自生保内(東)至盛岡(東)	20.0	2	66,000	90	鉄塔	60,000	865,000	21,625	13-4	14-11	-
神代線	自生保内(東)至神代(東)	11.0	2	66,000	110	鉄塔	97,700	253,000	22,685	13-4	14-11	-
秋田線	自神代(東)至秋田(東)	58.0	2	66,000	110	鉄塔	53,700	1,297,000	22,985	13-4	14-11	-
鳥海線	自秋田(東)至秋田(東)	62.0	1	66,000	55	鉄塔	12,000 (28,000)	868,000	13,871	14-4	15-11	-
酒田線	自秋田(東)經小出(開)至酒田(東)	53.0	1	66,000	55	木柱	14,000	450,000	8,491	14-4	15-11	-
庄内線	自酒田(東)至山形盛岡長崎(東)	110.0	1	66,000	90	鉄塔	15,000 (30,000)	1,840,000	16,727	14-8	15-11	-
板平連絡線	自板平(開)至大日堂(開)經小出(開)至酒田(東)	2.5	1	66,000	38	木柱	22,800	26,000	14,400	13-4	13-11	-
小出連絡線	自小出(開)至大日堂(開)經小出(開)至酒田(東)	3.8	1	66,000	38	木柱	22,800	30,000	7,895	13-4	13-11	-
總 計		945.3						1*155,000	14,974			

備考 送電容量ハ八戸線庄内線ハ概テ10%  
其他ハ7%ノ場合ヲ示ス

裏面白紙

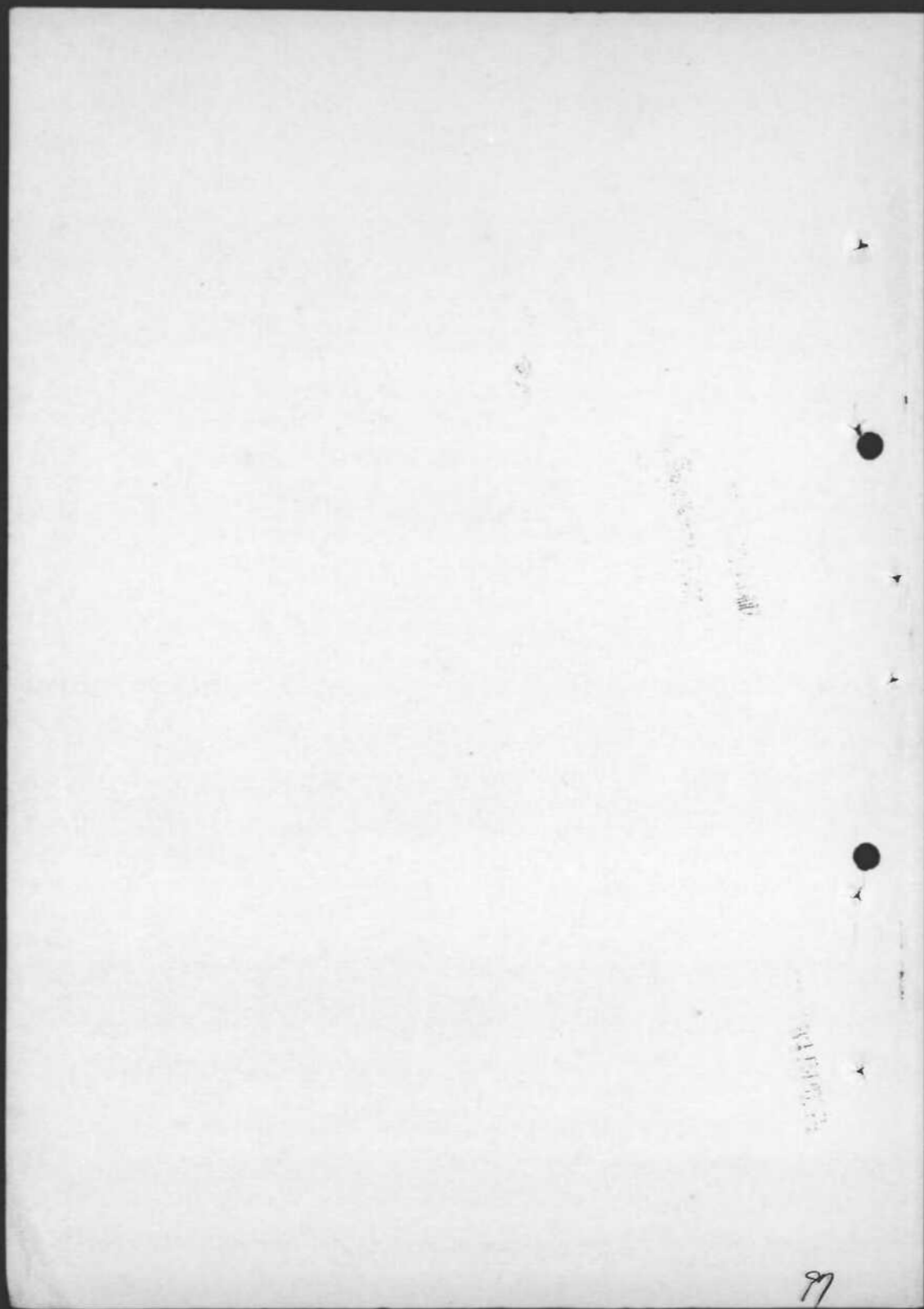
變電所設備

名稱	位置	出力 (KVA)	變壓器				電圧調整器 (KVA)	調相機 (KVA)	工事費 (円)		工事着手 年月	工事完成 年月	官廳=對スル手續 進捗ノ模様	
			容量 (KVA)	一次電圧 (V)	二次電圧 (V)	三次電圧 (V)			筒数	總額				KVA當
仙台	仙台市原町	2,500	2,500	63,000 60,000 52,000	33,000	22,000	4	10,000 10,000 6,000	7,000	583,000	78	昭和 13-5 15-12	昭和 13-11 (開閉所設置) 16-11	未申請
猪苗代	福島縣 河沼郡 日橋村	21,000	7,000	63,000 66,000 63,000	—	—	4	—	—	222,000	11	13-5	14-4	未申請
八戸	八戸市 小中野町 字田畑29	15,000	5,000	63,000 60,000 52,000	11,000	—	3	—	—	(268,000)	(18)	13-1	13-11	未申請
		* 30,000	5,000	63,000 60,000 52,000	11,000	—	4	10,000	10,000	* 698,000	23	13-12 15-12	14-11 (付帯電圧調整機) 16-11	
盛岡	盛岡市	9,000	3,000	63,000 60,000 52,000	33,000	—	4	10,000 10,000 2,000	5,000 5,000	625,000	69	13-12	14-11	未申請
秋田	秋田市	2,500	2,500	63,000 60,000 52,000	11,000	—	4	20,000	10,000 5,000	655,000	87	14-12	15-11	未申請
酒田	酒田市	2,500	2,500	63,000 60,000 52,000	33,000	11,000	3	10,000	3,000	(421,000)	(56)	13-12	14-11	未申請
		* 15,000	2,500	63,000 60,000 52,000	33,000	11,000	4	—	3,000	* 591,000	39	15-8	15-11	
總計		90,000								3,381,000	38			

備考 \*印ハ工事完成後ノ總額ヲ示ス

裏面白紙





裏面  
白紙